

市民による北上川・ナイル川国際文化交流活動

北上川リバーカルチャーアソシエーション

1 発足の経緯

人類は古くから水辺に定住の地を求めてきた。北上川流域においても稲作の普及と共に川沿いに農村集落が形成されていった。どのような流域社会においても、利水、治水、環境といった多様な川との接点を通じて育まれた特徴ある「川の文化」が存在している。

北上川リバーカルチャー・アソシエーション(「北上川RCA」と略称する)発足の契機は、2001年10月一関国際交流協会(会長 齋藤哲子氏、ベリーノホテル一関代表取締役社長)が主催した「エジプトの夕べ」に一関を訪れた当時の駐日エジプト大使モハムード・カレム大使閣下との出会いであった。北上川を視察した大使は、川が人々の身近にあって水辺への関心が高いことや平泉黄金文化と北上川との歴史的つながりについて、川の大きさに関係なく川の文化を学びあう交流の大切さを話しナイル川と北上川の姉妹河川提携を

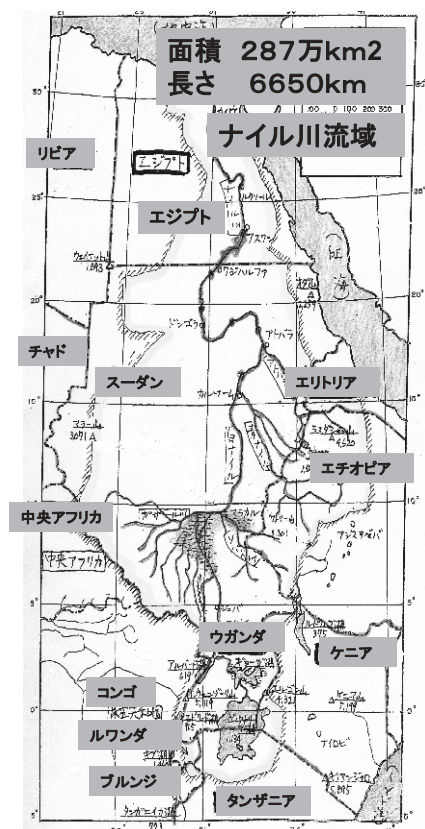
提案された。

一関の人々を中心に、川の大小や国の違いを越えて、世界各地の多様な「川の文化」を比較的に俯瞰することから人間と自然の共生のあり方を学び、新たな地域づくりにつなげようとする「川の文化・国際交流構想」を北上川流域から発信したいという願いが高まっていった。

その後約1年間半の準備期間を経て、2003年(平成15年)3月17日に岩手大学長の平山健一氏を会長とする北上川RCAがスタートするが、過去に例のない河川を軸とした国際文化交流は、本会の事務局長を引き受けた齋藤哲子氏と歴代エジプト駐日大使が積み重ねた交流の成果と多くの会員の意欲を結集して、はじめて発足の日を迎えることができたのである。

2 活動内容

北上川RCAは、2011年3月末現在で、個人会員47名、法人会員36社の小規模な市民団体であるが、結成以来、会員の熱意に支えられ、国、岩手県、一関市等の支援を受けながら以下のような活動に取り組んできた。



ナイル川・北上川姉妹河川協定の締結
第3回世界水フォーラム会場 平成15年3月17日京都

(1) ナイル・北上川の姉妹河川提携

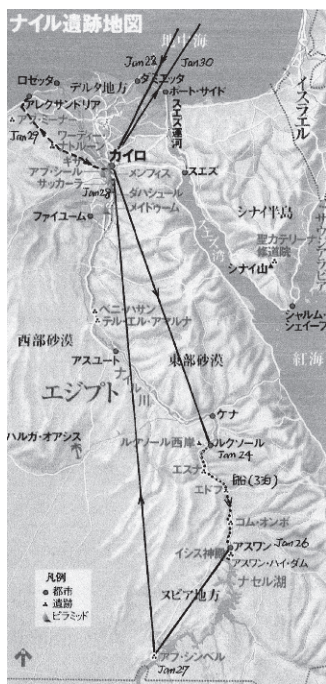
2003年3月17日、京都市で開催された「第3回世界水フォーラム」の会場において北上川RCAはエジプトの市民組織 ナイル川河川環境保全協会(The Nile Guards and Environment Protectors Association)と

ナイル川・北上川姉妹河川協定を締結した。北上川RCAが進めた国際的な取組に対して両国の政府から積極的な支援があり、岩城光英国土交通政務官(当時、以下同じ)、長沢小太郎国土交通省東北地方整備局副局長、アブゼイード エジプト水資源灌漑大臣、カルム駐日エジプト大使が調印式に立ち会った。

異なる気候帯に属し、流域面積287万km²、長さ6650kmのナイル川と流域面積1万km²、長さ250kmの北上川の比較からどのような成果が生まれるか楽しみの尽きない市民団体による川の文化交流が始まった。

(2) エジプト親善訪問

2005年1月22～31日、北上川RCAの19名の代表団はエジプトを親善訪問し、ナイル川河川環境保全協会会長アブデルアティ・エルシャフエイ氏やアブゼイード水資源環境大臣、マグダ・ジョージ環境大臣、アラブ連合経済大臣アメド・グエリ氏、カルム前駐日大使をはじめエジプト政府高官から熱い歓迎を受けた。カイロ、ルクソール、アスワン、アブシンベルを巡り、大河川ナイルが育んだ巨大なエジプト文明や穏やかな国民性に感銘を受けた。また特にルクソールからアスワンへの船旅ではナイル川の河川環境・水利施設の視察を行い、日本では気づかなかった水資源の偏在や国際河川管理など難しい課題の存在に気づくことが出来た。



エジプト親善訪問の行程 2005.1

(3) 北上川フォーラム

北上川フォーラムは「川の文化」を掘り起こしながら、地域の活性化を考える機会とするため、基調講演とパ



カイロにおける政府高官の歓迎エジプト親善訪問



エジプト訪問ーギザのピラミッドとスフィンクスを背景にー(2005.1)

ネル・デスカッション(または対談)で構成されている。2003年12月には姉妹河川提携を記念してヒシャム・バドル駐日エジプト大使のご臨席の下で、基調講演にはサイバー大学学長吉村作治博士、コーディネーターには川勝平太氏(現静岡県知事、前国際日本文化研究センター教授)の外、岩手県知事や一関市長など多数の来賓の臨席を得て最初のフォーラムを一関市で開催した。参加者は約800名を数えた。

翌年の2回目のフォーラムは「ナイル川とエジプト文明」をテーマに、バドル大使に加えてエジプトの全国紙アル・アハラム(Al-Ahram)の副編集長 カマル・ガバラ氏(Kamal Gaballa)が同行した。二人はフォーラムに先立って北上川で制作されたパピルス船の進水式にも参加して会員との交流を深めた。この様子はエジプトの新聞にも「ファラオの船が北上川に進



新エスナ堰と閘門



第一回 北上川フォーラム
2003年11月



2011.12



熱心な聴衆の前に講演する明石康氏
(2011. 12)

水」と報じられ、北上川の名をエジプトにも広く知らしめた。その後の「北上川フォーラム」はエジプト大使のご臨席を恒例として、川勝平太氏からはいつも暖かいご指導を頂きながら、千田孝信氏(前中尊寺貫首、故人)、増田寛也氏(前岩手県知事)、青山俊樹(元国土交通事務次官)、松田昌士氏(元(社)日本ユネスコ協会理事長)等、各界の名士の参加を得て、エジプト、北上川、世界遺産、環境などをテーマに年1回のペースで一関市で開催している。2011年12月には第8回目のフォーラムを明石 康 元国際連合事務次長を招いて開催し、国際情勢への理解を深めた。

(4) 平泉世界文化遺産登録の支援

北上川が育んだ平泉文化遺産のユネスコ世界文化遺産リストへの登録は流域住民の永年の悲願であり、本会では北上川フォーラムのテーマに掲げて登録へのムードを高めるなど、全力を挙げて登録の支援活動に取り組んできた。2008年5月、ICOMOSによる「ユネスコ世界文化遺産登録の延期」という決定は本会にとって思いがけない結果であり、3年後の再挑戦に向けて緊張感は大きかった。

2009年2月に開催された北上川フォーラムにおいて、当時の駐日エジプト大使ワリード・アブデルナーセ

ル氏(Walid M. Abdelnasser)を特別講演に向かえた。エジプト大使は、世界遺産登録を確実に推進する手段として、一関・平泉地区とルクソールの友好関係の強化を提案した。ルクソールは「カルナック神殿」や「王家の谷」を始め、エジプトが誇る多数の世界文化遺産の所在地であり、ルクソールと一関・平泉の友好関係の強化は平泉文化遺産登録にとって強力な推進力となることが期待された。

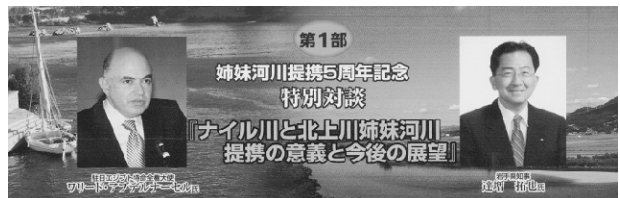
(5) エジプトルクソールとの友好関係の強化

2009年12月13日、北上川RCA会員の賛同を得て、ルクソール県との友好促進を目的とする北上川RCAの姉妹組織「一関・平泉地域とエジプト・ルクソール友好協会」が設立された。中尊寺の貫首である山田俊和氏を名誉会長に、平山健一氏を会長に、斎藤哲子氏ほか3名を副会長に選任して会員の募集を開始した。

友好協会の発足に際して、山田俊和貫首から藤原3代の遺体と共に800年の睡りから目覚めた「中尊寺古代蓮」の種を友好の証としてルクソールへ寄贈したい



世界遺産 奥州藤原文化を伝える平泉中尊寺



アブデルナーセル大使の提言があった達増岩手県知事との対談
(2009.2. 一関市)



一関・平泉地域エジプト・ルクソール友好協会の設立
(2009.12. 一関市)



エジプト政府・ルクソール訪問 2010.4
エジプト農務省訪問



中尊寺古代蓮



ルクソール知事から贈られた
友好の盾

という申し出があった。

第7回北上川フォーラムに於いて、ルクソールに贈呈される古代蓮の目録がエジプト大使に手渡されたが、2010年4月、山田貫首始め友好協会の主なメンバーがエジプトを表敬訪問して、エジプト政府、ルクソール県の高官に面会し、古代蓮の種子を寄贈し、友好促進と世界遺産登録における平泉への支援を依頼した。ルクソールは古代エジプトの新王国時代の首都として栄えた土地でありその紋章は「ロータス(蓮の花)」である。まさに「蓮の花」が両地域の交流のシンボルとなった。

訪問団は、カレム前駐日大使の邸宅に招待を受け、エジプト在住の日本関係者との交流の機会を得たが、その際、Al-Ahram新聞社の Gaballa氏に再会して日本とエジプトの交流の発展を話し合うことが出来た。ルクソール地区のカルナック神殿、ルクソール神殿、西岸の王家の谷やカイロのエジプト歴史博物館を見学して、エジプトの持つ世界文化遺産の奥深さに感銘を受けた。同時に平泉文化遺産とエジプト文明のつな

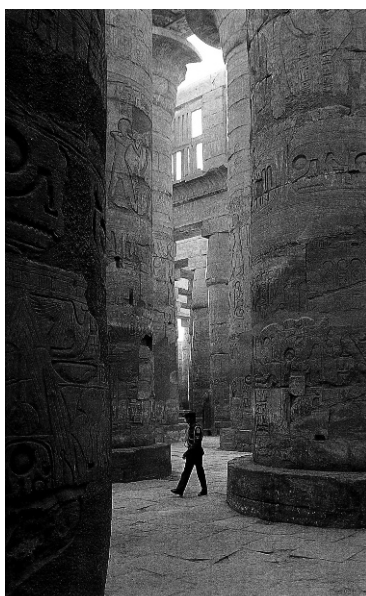
がりや文化遺産の活用・保存などについて学ぶところが多かった。今回のエジプト訪問によって両地域の結びつきは急速に深まった。

(6) 文化セミナー

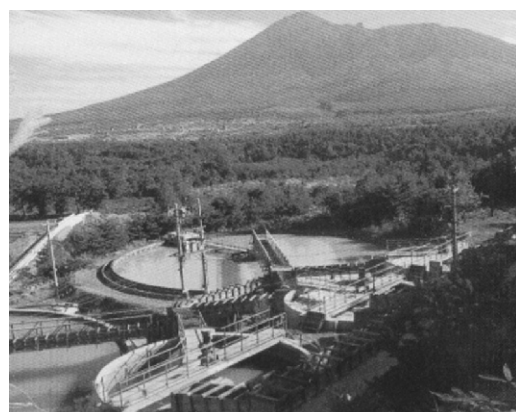
日本や世界の川に対する理解を深めるため2006年8月より文化セミナーを年3回のペースで開催している。最初の「古代エジプトの遺跡と神々～源流の神と人々の来世観」(現花巻市博物館長 高橋信雄氏)から始まったセミナーは2012年3月までに14回を数えている。第14回セミナーでは、カイロ大学から来日・滞在中の医師、ハイサム・ガリール博士から「エジプトの現状」について講演を頂いた。ガリール氏はカレム元駐日エジプト大使の娘婿であり、交流の絆の深まりを感じる機会となった。

(7) 北上川におけるその他の活動

国土交通省が一関市に設置した北上川の学習・水防活動の拠点「アイポート」付近に桜の若木を植樹する活動を「さくらの会」等と合同で毎年行っている。また八幡平旧松尾鉱山跡地の新中和処理場や北上川5大ダムの見学、国土交通省の河川調査船「ゆはず」による河川環境の監視、他活動団体との交流、エジプト展・葦舟の制作等によるエジプトの理解促進にも取り組んだ。



ルクソールのカルナック宮殿 2010. 4. 訪問



松尾鉱山跡で稼働を続ける
新中和処理施設

3 活動の効果・社会への波及効果

北上川RCAの活動期間は、2003年2月から2012年4月の現在に至る通算8年10ヶ月になる。これまでの活動による効果は以下のようにまとめられる。



北上川で制作されたパピルス舟

(1) 本会の企画した様々な行事を通じて、会員は異文化を経験し、同時に北上川が育んだ文化の素晴らしさを再発見できたことは最大の成果である。また多くの市民の市民活動への参加意欲を高める機会となった。北上川フォーラムの参加数は常に会員数の数倍を越え、一般市民への啓蒙の機会として定着してきたことに確かな手応えと自信を感じている。

(2) 会員の高い活動意欲や本会の充実した活動内容に対して、岩手県知事を始め行政関係者の期待と信頼は大きい。マスメディアの論調や川勝平太氏、吉村作治氏等の著名な研究者からも本会の活動に対して高い評価を受けている。

(3) 平泉世界文化遺産登録決定の過程で、間接的ながら市民も効果的な貢献をすることが出来た。フォーラムなど本会の活動により平泉世界遺産登録に向けた地域住民の結束が強まり、支援活動の強化に貢献した。

(4) 世界各地からルクソールを訪れる観光客は年間400万人とも言われるが、ルクソールとの友好関係の強化により平泉文化や北上川の名称を世界に発信する道が拓かれた。同時に日本からエジプトを訪れる旅行者の増加が予想されるなど、両地域の互惠・友好関係の一層の強化が期待できる。

(5) 2011年6月30日の平泉世界遺産登録が、辛く、悲しい大震災からの復興を元気づける契機となることを心から期待している。山田貫首は「中尊寺が世界文化遺産の一つとして登録されたことで復活、復興の心の支えになればいい」とコメントされたように、この明るいニュースが被災者への励ましと失われた命への鎮魂の祈りにつながって欲しいものである。

(6) 2012年3月、韓国訪問途上のエジプトの外部大臣ムハンマド・カーメル・アムル閣下は非公式に震災

被災地の視察を希望された。大使館から当会に視察準備等の急な打診があり、当会と一関市・陸前高田市・岩手県が対応して、タイトな行程であったが大臣の要望に応えることができた。また4月になって当会は被災3県の子供達をエジプトへ招待したいとのエジプトの観光大臣の申し出を受けた。現在、各県の担当部局に引き継ぎ、計画の具体化を楽しみに待っているところであるが、川の交流がきっかけとなって思いがけない広がりが生まれている。

4 活動の課題と今後の方向

国際交流は相手国の国内事情や国と国との習慣の違い等に左右されることが度々生じる。ルクソールとの友好関係の促進は「一関・平泉地区とエジプト・ルクソール友好協会」の主要メンバーによるエジプト表敬訪問によって交流の揺ぎないレールは敷かれたが、2011年春のエジプト国内の政変によって交流は一時休止し最終的な協定締結等の詰めが残っている。

今後、エジプト国内情勢の安定を待って、多くの関係の皆様の支援を得ながらルクソール県との協議を再開し岩手県民によるエジプト訪問等を企画するなどエジプトとの交流の拡大を計画している。また東日本大震災被災者に対する具体的な活動では、これまでも新たな試みとして既に実施してきたコンサート・朗読など文化的な面での支援を続けて行きたい。

ボランティア・ベースの市民活動は時間と共にマンネリ化することが多い。前向きに動き続けることが大切であり、行政には考えが及ばない市民らしい企画を打ち出し、小粒でも具体的な成果を心がけていきたい。特に、世界文化遺産を有する地域にふさわしい街づくりへの活動や共生の縄文社会、蝦夷(えみし)の誇り、平泉の浄土思想、宮沢賢治のこころ等、北上川が育んだ素晴らしい文化を会員がより強く実感し、世界へ発信していきたいと願っている。

最後に、「北上川RCA」と「一関・平泉地区とエジプト・ルクソール友好協会」はそれぞれが独自の活動目的を持つ組織であるが、実動しているメンバーの大部分は重複し、両組織は連携して活動を行っている。運営のさらなる効率化や活動の省力化に向けて思い切った組織・運営形態の検討が必要と考えている。